

### 演奏会を終えて

第13回演奏会を無事終了することができました。今回は、教会を離れ300席というホールで演奏会をしました。初めての試みでどのようになるか心配でしたが、会場のことについては、今井さんが、受付は陽子さんが、とても細かく周到な準備をしてくださったのでスムーズにできました。当日は悠さんが進行を担当してくださったので助かりました。酒匂さんご夫妻には、プログラム・チラシ等の作成、そして司会をやっていただき演奏会を盛り立てていただきました。また、受付、写真撮影、CDのコピーなどでは、団員の息子、娘たちにもお世話になりました。ありがたいことです。

聴きにきてくださった方は、100名以上になりました。遠路はるばる来てくださった朝倉さんが感想を送ってくださいました。



### 演奏会の感想

先日はありがとうございました。ほんのお礼のつもりで、簡単に感想を書き留めてみました。

「花季」が鳴ったときには、びっくりしました。ほんとの混声がかかっていた。つくづく混声はいいなと思いました。こういったちゃんなんです、おどろくほどきれいなハーモニーでした。人の心をほんとに心地よくさせてくれるものでした。「草原の別れ」の出だしで、あれっと思いました、その後のリカバリーがおみごとでした。それから、何回か破綻するのではないかという場面もすました顔して乗り越えてしまう、したたかさには恐れ入りました。

そして、互いに聴き合ってそれぞれを大事にして合唱している様子をはっきりわかり、安心して音楽にのめり込むことが出来ました。ベースが高い音をきれいに抜いてひびかせているのに感動しました。自分だったら、やっと出番だとばかり声を張り上げて、したり顔していただろうなど、昔の自分が恥ずかしく思えました。長年ポリフォニーを続けてる成果が生きているのだと思います。互いに互いを生かして全体のまとまりを作り上げている様子を見るだけでも癒されたのですが、それが音としても聴くものを包み込み、人の心を癒してくれます。それを40年以上やってるわけですから、若い先短い合唱団としては、市や県の無形文化財に指定してもらったらどうですか。それくらい貴重な物だと思います。

多田武彦や心の四季なんて、大人数で演奏されることを予定している曲を、そうでなくてもパートバランスが取りにくいだろうに、選曲ミスではないかと思ってました。ところが、かえってしっとりとした情感たっぷりの演奏に、私が若き日に歌ったのが、なんと荒っぽい物だったのだと反省させられました。雪の日には、良くここまで喉をつぶさずにできた目頭が熱くなるのを覚えました。それにしても、愛そして風の前奏のエスプレッシーボには、まいりました。そして、真昼の星の三連符の下のアルペッジョが艶っぽいこと。身震いしました。

二つだけ、注文させてください。ひとつは、以前よりは、日本語の発音の明瞭さが落ちたように聞こえました。これは、横室の特色であると思いますので、きっと、残響のせいだと思いますが、これからはリハーサルで修正してくれると思いますが。

もうひとつは、指揮者や伴奏者があそこまで大仰にしなくても良いように、ご本人達も上品にやりたいでしょうから、情感たっぷりだが遅くならないように歌ってあげてください。

また、好き勝手なことを言って申し訳ありません。1200km遠くから聴きに行つてほんとに良かったと思つてます。ありがとうございました。

